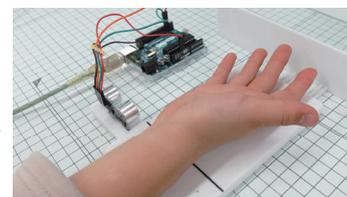


体に見合う使い易さを自動デザイン

ユーザビリティ実験を基にしたデザイン手法

アピールポイント

- ✓ 体に見合った形状やサイズ展開指標を提案
- ✓ 計測データから3Dモデルを即時生成



技術の特徴

- ・ 体に見合った使い易い製品の3Dデータを生成
- ・ SMLの寸法を自動的に提案
- ・ 身体計測情報からリアルタイムに生成

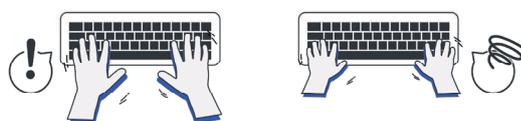
企業へのご提案

- ・ 想定ユーザの体の大きさに合わせる
サイズ展開や小ロット生産の補助
- ・ 人に寄り添う機能としてのデザイン提案

技術の概要

「人に寄り添う機能」=「児童個人の手長に寄り添ったキー間隔」としたキーボード開発例

JIS キーボードのキー間隔は
児童の手には大きすぎる可能性



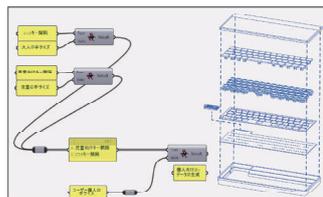
体に見合った製品を使用する事による
使用者の満足度向上を図りたい



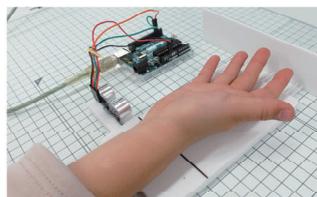
1 複数の試作と
ユーザの情報収集



2 3D データ生成用
アルゴリズム作成



3 身体情報をデータ化する
治具の作成



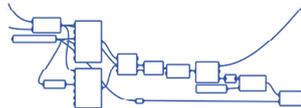
4 体に見合った使い易い
形状を即時提案



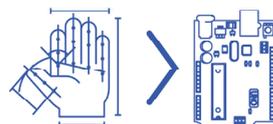
提案例



想定ユーザの群で実験



情報入力

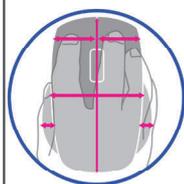


身体情報のデジタル化

3D

3D モデル化

技術の展開例



マウスでの展開例

本体縦横比
ボタン幅
フィンガーレスト



ハサミでの展開例

リング部縦横比
リング部から柄の距離
リング厚み
小指かけ位置

地域技術支援部
城東支所
福原 悠太